

小学生の部



最優秀作

内閣総理大臣賞

愛媛県愛媛大学教育学部附属小学校

二年

若狹^{わかさ}

早^{そう}

頭のイナズマ

ズキン、バリバリッ。頭のいたみに、ぼくはびつくりしました。いつもは元気いっぱいなのに、今は何もした
いと思えません。ぼくは交通じこにあり、頭のほ
ねがおれ、頭の中で出血してしまつたのです。

きよ年の十二月、お絵かき教室からの帰り道。ぼくが
自てん車で交さ点をわたつてると……帰りをいそいで
いる車にドン、とはねられました。ぼくは一メートルく
らいとぼされて、地めんにたたきつけられたのです。自
てん車は車にまきこまれ、ガリガリけずられました。夕
方五時すぎ、空はどんだん夜にむけてくらくなる時間の
ことでした。

ぼくはヘルメットをかぶっていました。白と黒のかつ
こいいデザインで、これをかぶっているとよくほめられ
ました。

「いいなあ、そのヘルメット。」

「レーサーみたいだね。」

ぼくのお母さんも、ぼうしと一体になったヘルメット
をかぶっています。自てん車にのる時は、かならずヘル
メット。それをずっとつづけていたから、車にはねられ
頭をうつても「線じょうこっせつ」ですんだそうです。
頭のしゃしんには、ピリピリとイナズマのような線が
入っていました。おいしゃさんから、

「ヘルメットがなければ、かんぼっこっせつ、のうざ
しようなどになっていたかも知れないよ。それは今より
ひどいじょうたいで、いのちにかかわるからね。」

とせつめいされて、ぼくはヘルメットの大切さがよく分
かりました。

ぼくがいるえひめけんは、自てん車にのる人のヘル
メット着用りが日本一です。けいさつの人がしらべた
ところ、えひめけんでは七わりの人が着用していたそう
です。車と自てん車の交通じこで、大切ないのちがいく

つもうしなわれたので、

「ヘルメットをかぶるのは、当たり前。」

このいしきが生まれたそうです。それなのに、着用りつが一わりを切る場しよもまだあります。だからぼくは、ヘルメットでいのちがたすかったことを、これからたくさんの人に伝えたいと思います。

交通じこにあつた時、ぼくは自てん車のライトをつけ、はんしやざいのついたふくを着ていました。右・左・右のかくにんもしていました。どんなに用心していても「まさか」はおこります。だからみなさん、ヘルメットをかぶりましょう。あんぜんとあん心の目じるし、SGマークなどがポイントです。かっこいいデザイン、かわいいデザインのものもあります。いのちをまもるおまもりとして、ヘルメットをかぶりましょう。

今年の六月、ぼくはやつと頭のほねがくつつきました。ぼくの頭のイナズマは、これから二、三年かけてうすくなつていくそうです。ヘルメットがあつて、本当によかったです。



優秀作

國務大臣・国家公安委員会委員長賞

埼玉県久喜市立太田小学校

一年

森永^{もりなが}

紗礼^{さあや}

とうげこうできをつけること

わたしは、ことしの四がつからしようがつこうににゅうがくして、こどもたちだけのとうげこうはんでがつこうまであるいてとうげこうするようになりました。

おとながいつしよにいないときにそとをあるくのははじめてで、はじめはきんちようしましたが、五ねんせいのはんちようさんについていってあるいていっていません。

わたしのつうがくるは、じゅうたくがいのなかにあるどうろをとおっていきます。このどうろはほどろがないばしょがおおいので、くるまにひかれないうようにはしつこをあるくようにしています。たまに、くるまがすごい

はやさできゆうにまがつてきたりするので、まえをよくみてあるくこともたいせつです。

また、おうだんほうでは、みぎ、ひだり、みぎをかくにんして、てをあげてわたるようになっています。がつこうのちかくのおうだんほうには、けいさつかんのひとや、はたふりのおとうさんおかあさんもいて、こどもたちをみまもつてくれます。

かえりは一ねんせいだけのげこうはんでかえります。いえがとおくにあるわたしは、とちゅうからはひとりになつてしまうときもあります。そんなときは、ちいきのみまもりのおじいちゃんがつしよについてきてくれたりもします。

まいにち、たくさんひとたちのおかげであんぜんにとうげこうできています。ほんとうは、くるまにのつているひとがスピードをだしすぎないようにしたり、こどもたちも、とびだしたりよそみをしないなど、かならずルールをまもれば、みまもりがなくてもあんぜんにとうげこうできるのになとおもいました。

おかあさんに、このことについてはなしたら、「そうだね。ひとりひとりがしつかりと、こうつうあ

大分県大分市立野津原小学校

二年 竹山 たけやま 明里 ひかり

んぜんをいしきするのがだいじだね。」
とうなずいてくれました。そして、もうひとつ、
「でも、まだぜんいんがルールをまもれていないから、
じぶんのことはじぶんでまもらなければいけないね。」
といわれました。

「おうだんほどのしんごうがあおだとしても、ほん
とうにくるまがきていないかもいちどかくにんしてか
らわたること。くるまのしんごうがあかでも、とまらず
にはしってきってしまうくるまがいるかもしれないから
ね。」

おかあさんのはなしをきいて、わたしは、しんごうが
あおでも、もういちどまわりをよくみてからわたるよう
にしようとおもいました。二がつきからはもつときを
つけて、これからもあんぜんなとうげこうをしていきたい
とおもいます。

わたしが大きくなったたらたくさんの人をしあ
わせにしたい

わたしに、大きな夢ができました。それは、大きくなっ
たら、たくさんの人をしあわせにすることです。

夏休みになってから、毎日朝に、おかあさん、おとう
さんの3人で、交通安全の活動をしながら、ゴミ拾いを
やって歩いています。たまにお兄ちゃんたちも、いっしょ
に歩きます。おとうさんとおかあさんは、交通指導員で
す。

毎日とてもあついです。朝なのに歩いているだけでも、
あせがいっぱい出て、ふくがビチョビチョになって、ふ
くをきがえたくありません。

わたしたちを見ると、スピードを出して運転している
人が、スピードをおとしてくれます。そして、スマホ運
転の人が少なくなったので

「交通安全をしてよかったなー。」

と思います。

ゴミ拾いでは、タバコのすいが多いです。ジュースのカンやペットボトルも多いです。ビールやチュウハイのカンも拾います。

タバコは、運転しながらすっているのだと思います。火を付ける時によそ見運転でじこをしないか心配になります。

ビールやチュウハイのカンを拾うと、いんしゅ運転をしているのかなあと思います。じこをしたらあぶないです。

なんでゴミを車のマドをあけて、道路にすてるのかなあ？どうしておうちにもって帰らないのかなあ？と思います。

わたしは、道路がきれいになると気持ちがいいので、ゴミを拾い続けます。交通安全にもつながると思うので続けます。

毎日、消防しょのお兄さん、スーパーパーのおばちゃん、ドッグサロンの犬たちに、あいさつしに行きます。みんなニコニコしてあいさつを返してくれます。車の人も

「プップー」

とクラクションであいさつしてくれるようになりました。そしたらわたしは、

「今日も、安全運転してね〜。」

と言いながら手をふります。

あいさつしてくれると、とってもうれしくて、しあわせな気持ちになります。だからわたしは、あいさつも続けて行きます。

これからも、交通安全と、あいさつと、ゴミ拾いを続けて、大きくなったらたくさんの人をうれしくして、しあわせにしたいと思います。

大阪府大阪市立丸山小学校

三年

中西なかにし

広ひろ

やさしい横だん歩道

ぼくのおばあちゃんは、目が見えませんが、ではなく、七年前に運転めんきょしょうを返のうして、五年前には完全に見えなくなってしまうそうです。今

まで目が見えていたので、家の中での生活はこれまでとあまり変わらずに過ごしています。けれど、一歩外に出ると、とてもこわいそうです。近所のスーパーまで行くのに、しん号を一つこえていかないとダメです。交差点まで来てもしん号が見えないので、何度もしん号を見送って、誰かが来たらその人といっしょに渡るそうです。ぼくがそばにいたら、おばあちゃんのことをたすけてあげられるのになとも思っていました。

ある時、ぼくの家の近くの横だん歩道をわたっている時、音が鳴っていることに気がつきました。お母さんに聞くと、二しゆるいの音があり、目の不自由な人のために、しん号が青になったかどうか分かるようになっていんだと教えてくれました。音のちがいをよく聞いてみると、「カッコウ」と「ピヨ」の二しゆるいの音があることがわかりました。ぼくは、さっそくこのことをおばあちゃんに教えてあげました。そしておばあちゃんといっしょに音をかくにんしながら、近所の横だん歩道をわたりました。わたりおわたたらおばあちゃんがとてもよろこんでくれたので、ぼくもうれしくなりました。

音が鳴る横だん歩道について調べてみると、交通量の

多い少ないで音のちがいを出したり、東西を走る道路と南北を走る道路で音のちがいを出したりして、どちらの音になったらわたればいいのか分かるようになっていました。また、大きい交差点では、「カッコウ」と「カカコー」、「ピヨ」と「ピヨピヨ」といったように、道路のこちらがわとあちらがわで出す音に少しちがいをつけることで、進む方向がわかりやすくなっているところもありました。

全国の横だん歩道には、音が鳴らないところもまだたくさんあるそうです。ぼくは、おばあちゃんが安心して外を歩けるように、また、おばあちゃんのように目が見えない人が一人でも安心してわたれるように、目が見えない人にとって、「やさしい横だん歩道」がもっとたくさん増えていってほしいなと思いました。

命を守るジュニアシート

きよ年の夏休み中、テレビから悲しいニュースが流れ
てきた。車とバスが正面しようつし、後ろの席に乗っ
ていた5才と7才の姉妹が亡くなったというニュース
だった。その中で一番おどろいたのは、姉妹はシートベ
ルトを着用していたのに、事故のしようげきでしめつけ
られてしまったのではないか、ということだった。

事故にあってしまった女の子と年が近いこともあり、
「もし、この車に乗っていたのが私だったら…」と思わ
ず考えた。二人ともシートベルトをしていたのに、どう
して命を落としてしまったのか、とうとい命が失われて
しまったのか、ふしぎでたまらなかった。

私は気になり、その事故のことを調べてみると、ジュ
ニアシートを使っていなかった事が判明した。身長が
百四十センチ※にみたない子どもがジュニアシートなしで
シートベルトをすると、ベルトが首やおなかにくいこん

でしまい、強いしようげきを受けた時に亡くなってしま
うリスクがあると初めて知った。命を守るためのシート
ベルトが、ぎやくにきょうきになってしまふ事を知り、
こわい気持ちと同時に、姉妹を想うとむねがぎゅつと
なった。

その時私は、あの出来事を思い出した。

「え、まだそんなの使ってるの？」

ある日、友達を車でむかえに行つた時に、私がジュニ
アシートにすわっているすがたを見て、そう言われた。
私は顔がカッと熱くなつて、すぐくはずかしくなつた。
もう小学生なのに、なんだか自分がとても小さい子ども
のように思えて、いやな気持ちになつた。

家に帰つてから、私は母につぶやいた。

「もうジュニアシートはやめたいな。私も大きくなつ
たからいらぬよ。」

すると母は、私をだきしめてから、しんけんまなざ
しでこう言つた。

「これは、あなたの命を守るための大切な物よ。だから、
同じ目線でお話ができるようになるまで、おねがひだけ
ら使おうね。」

その時の私は、母の言葉の本当の意味がまだよくわかっていなかった。

母が「命を守るため」や「同じ目線」と言っていた意味が今になってようやくわかった。いつも私がすわっているジュニアシートは、万が一の事故にあった時に、命づなのシートベルトを大人と同じように、きちんと正しく固定できる体かくなるまで必要な、とても大切なそんなものだ。と理かいできたのだ。

今では、からかわれてはすかしいと思っていたジュニアシートは、決してはずかしい物ではなく、命を守ってくれる物だとむねをはって周りのみんなにも伝えたいと思う。

そのためにも、ジュニアシートを使う事が少しだけ面倒だとか、周りの目が気になるなどという気持ちだけで、大切な命をきけんにさらさないでほしいとよびかけていきたい。

※現在、日本自動車工業会や日本自動車連盟においては、6歳以上でもチャイルドシートの着用を推奨する体格の目安を、身長百五センチメートル未満とされています。

鹿児島県長島町立川床小学校

五年 浦^{うら} 来叶^{くうと}

お父さんと行く鶏ふん配達と交通安全

ぼくの楽しみな土曜日。今日は、お父さんと一緒に鶏ふん配達に行く日だ。朝早く、まだうす暗い中、エンジンをかけたお父さんのダンプトラックに乗り込んだ。車体が

「ブルブル。」

と震えるのを感じながら、ぼくは、シートベルトをカチツとしめる。お父さんは、いつも

「シートベルトは、命綱だぞ。」

と教えてくれる。ぼくたちの冒険は、この安全確認から始まる。

家を出てすぐは、お店や家が並ぶ見なれた道だ。でも、しばらく走ると、周りの景色は、あつという間に変わる。ぼくたちのダンプトラックは、どこまでも続く田んぼや畑の中の一歩道を進んでいく。朝つゆにぬれた稲がキラキラと光り、遠くには大きな山々が連なっている。鳥の

声が聞こえ、澄んだ空気がまどからスーッと入ってくる。こんな気持ちのいい道だけど、お父さんはいつも真剣な顔でハンドルをにぎっている。

最初の配達先に着くと、お父さんはダンプロトラックをきちんとはじによせて停めた。

そして荷台から鶏ふんの入った大きなふくろをいくつも下ろしていく。一つ一つが重そうだけど、お父さんは、なれた手つきで運んでいく。ぼくも小さなふくろを運んだり、スコップを渡したりしてお手伝いをした。作業中もお父さんは、

「車のかげから人が出てくるかもしれないから、気を付けるよ。」

とか、

「荷物を高く積みすぎると、カーブでバランスをくずすことがあるんだ。」

と、安全に関する色々な話をしてくれた。

何ヶ所か配達していくうちに、ぼくたちはどんどん山の方へ進んでいった。道はだんだん細くなり、カーブもふえてくる。お父さんは、カーブの手前で必ずスピードを落とし、

「対向車が来るかもしれないからちゃんと確認するんだぞ。」

と教えてくれた。見通しの悪い交差点では、一度止まって左右をしっかりと確認してから進む。ふだん、自転車に乗っているぼくも、見なれた道でも、こんなに気を付けないといけないんだと改めて交通安全の大切さを感じた。

全ての配達を終え、夕焼けが空をオレンジ色にそめるころ、ぼくたちは家路についた。一日中ダンプロトラックに乗っていたけれど、安全に気を付けながら運転してくれたお父さんのおかげで、ぼくは一度も怖い思いをしなかった。

今日一日、お父さんの仕事を手伝って、働くことの大変さや、食べ物がどのように作られているのかを知ることができた。ぼくも将来、車を運転するようになったら、今日お父さんから学んだことを忘れずに、どんな時も安全運転を心がけたい。

登校班の問題児

私は、今年度登校班の班長になりました。初めての大きな役割をまかされ、私はやる気になりました。しかし一つ問題がありました。私の班には一人問題児がいるのです。

その問題児こそ私の妹です。妹は、予定より三か月早く生まれました。身体が小さく手足がかたいためよく転びけがをしています。そして、やんちゃで気が強い性格です。問題児の行動は、注意すると行動がエスカレートしわざと列からはみ出る、突然立ち止まって全く歩こうとしない、同じ学年の友達とかさで戦いをするなどです。妹が原因で、学校に遅刻してしまう事もありました。徐々に妹への怒りがつのっていききました。

そこで母に相談してみる事にしました。妹に注意してくれると思っていたところ、母からの意外な言葉に驚きました。相手を変えるためには、まず自分が変わってみ

るように言われたのです。なぜ相手が悪いのに自分が変わる必要があるのか理解できませんでした。

そんなある日、横断歩道を走って渡っていた妹が、転びました。私は、すぐに妹をおんぶして安全な場所に移動させました。すると妹は、「ごめんさい。」と泣きながら言いました。車がとまってまっていてくれたおかげで、妹は大けがをする事もありませんでした。

その時、以前兄から自分が注意を受けて嫌な気持ちになった事を思い出しました。私は今まで、悪いと思った事を注意してきました。安全運転をしましょう、ながらスマホをやめましょう、などと色々注意を呼びかけていても事故は起こっています。それは、注意を受けた事をよく思っていない人達が多いからではないかと考えました。

しかしながら、注意をする事は、時には必要な事だとも思います。妹に毎日注意をする事は、とても体力がいる事でした。今思うと本当は、妹を守りたいという強い気持ちがあったからできた事です。相手が自分の思いに気付かないうちは、反感をかう事もあります。注意がきっかけで、相手が考え、気付いたりする事もあると思

うからです。

そこで自分がどのように行動すれば、妹がかわつてくれるかも一度よく考えてみました。まず、注意を守つてもらつたらお礼を言つてみる、けがをしてほしくない気持ち伝えてみる、注意ではなくお願いしてみたらどうか、などがうかびました。

早速行動してみると、今までは全く言う事を聞かなかつた妹が、一人でもできると言い、横断歩道の前で立ち止まり左右の確認をしていました。相手を変える事は、簡単に上手くいくわけではありませんが、自分が変わる事で相手にも少し変化がでる事が分かりました。

今の私にできる事は、さ細な事ですが、危険な行動はしないように相手に愛情をもつて伝える事から始めていこうと思います。一人でも多くの人が自分から交通ルールを守る事が、自分だけでなく、大切な人の命を守る事につながると私は信じています。

優秀作

文部科学大臣賞

大阪府四條畷学園小学校

五年

谷

青葉

大切な人を思い浮かべて

「今日も雨か。」ここ最近、雨ばかりで気持ちはどんよりしていた。パジャマのまま朝食を済ませ、学校から父の声が聞こえた。祖母からの電話のようだ。どうも自転車のカゴにたくさんの食材をつめこんで、バランスを崩して転んだらしい。雨上がりに食材を買いたい、祖母の行動もわかる。週末、祖母に会いに行つた。あごに貼られた大きめの絆創こうが目飛び込んでくる。父母も真つ青な表情で祖母の話を聞いていた。私が生まれ、夏に購入したという祖母の自転車も、あちこち傷んでいたの買い替えることになった。「お客さん人気のへ

ルメットがありますよ。」店員さんにそう言われた祖母は、首を横に振って口を真一文字に結び「いい、まだ大丈夫。」と断っていた。ご近所の人も被っていないし、恥ずかしいということだろう。私も父母もがっかり。まあそうなるよな。

今春、大阪府警察本部で行われた交通安全コンテストの表彰式で、最優秀のお姉さんが作文を朗読されたとき、会場中がそう然としたことを祖母に話した。それは妹さんが自転車にはねられて地面へたたきつけられる事故にあい、今でも顔の傷あとを手でこすって取ろうとする。交通事故は目に見える傷だけではなく、心にも傷を負うんだと知ったお姉さんは、春から新一年生になる妹さんを事故からどうやって守れるのか、家族で考えて話し合った内容だった。祖母はやりきれない表情で「妹さんもお姉さんもご家族も交通事故でつらい思いをされているんだね。やっぱりヘルメットを被るよ。心配かけてごめんね。」と言ってくれた。祖母にも大切な家族が傷つく苦しさや悔しさをわかってもらえたようだ。これからもヘルメットを被って安全運転してほしいな。

学校帰り、友達とおしゃべりに夢中で横断歩道を渡

ろうとしたとき、ふと、祖母の顔を思い出した。「そうだ、冬休みからチャレンジしている、横断歩道ではドライバーさんに視線であいさつするんだった。」このコンテストがきっかけで、大切な家族を思い行動できるようになった。「みんなも大切な人の顔を思い浮かべて行動してみませんか。」そうすれば周囲もよく見えてくるはずだ。一人ひとりが交通事故を起こさないように行動する。そして運転者も歩行者もお互いに目を合わせて、相手の行動を予測し、思いやりと譲り合いの行動をする。「帰りを待っている人がそれぞれいるんだぞ。」と思えば、気持ちもほっこりして余裕が生まれて、思わぬトラブルや悲しい事故が減らせるのかもしれない。あのお姉さんの切ない表情は大人になっても忘れない。

今日も大阪府警察本部で副賞としてもらったお気に入り真っ白いヘルメットを被って安全運転だ。「おや、虹が出てきたぞ。」祖母はどうしているかな。声をかけてみようかな。

佳作

警察庁交通局長賞

宮崎県宮崎市立大淀小学校

一年

木村

隼輔

こどもタヌキのこうつうじこ

ちいさなタヌキが、たおれているのを、おじいちゃん
のいえへむかうこうそくどうろでみました。おとうさん
は、「タヌキのこどもが、ひとりでどうろにとびだした
のかもしれないね。きつと、おかあさんタヌキがさがし
ているよ。」といいました。ぼくは、おかあさんにあえ
なくなつたこどもタヌキのきもちをかんがえました。そ
したら、とてもかなしいきもちになりました。こどもタ
ヌキは、ともだちタヌキとあそんでいて、くるまにきが
つかなくつたのだとおもいました。こどもタヌキは、て
をあげることができません。うんでんしゅのひとは、こ
どもタヌキがちいさいから、きづかなかつたのかもしれ

ません。

ぼくも、しょうがつこうからかえるときにくるまにぶ
つかりそうになつたことがあります。そのことを、いえ
にかえつてからおかあさんにはなすと、すぐおこられ
ました。おかあさんは「くるまにひかれてしんじやつた
ら、だれともおはなしできないし、がっこうにいふこと
も、あそぶこともできなくなるのよ。」といいました。きつ
と、おかあさんもぼくがくるまどぶつかることが、こわ
かつたのだとおもいます。もし、ぼくがくるまにひかれ
て、おとうさんやおかあさん、おとうとたち、かぞくや
しんせきみんな、せんせい、おともだちにあえなくなつ
たらとかんがえたら、こわくなつて、ないてしまいまし
た。

このまえ、ぼくは、ようちえんせいのおとうとといつ
しよに、そとをあるきました。おかあさんは、あかちゃ
んのおとうとをだっこしていました。ぼくは、ようちえ
んせいのおとうとがきゆうにどうろにとびだすかもしれ
ないとしんばいになりました。だから、おとうとのてを
つなぎました。ぼくは、おとうとに「あぶないからはしつ
たらだめだよ。」といいました。ぼくは、もうかたほう

のてをたかくあげて、うんでんしゆのひとにきづいても
らえるようにしました。おとうとたちがおおきくなった
ら、こどもタヌキのこうつうじこのはなしをして、こう
つうあんぜんのことをおしえたいとおもいます。

福島県西郷村立熊倉小学校

一年

中里 なかさと

心花 このは

あんぜんにあるく

わたしは、まいにちともだちといっしょにどうこうは
んでがっこうへいきます。

どうこうはんにはおとながいません。だから、みんな
できをつけてあるきます。さいしよはすこしふあんだつ
たけれど、いまはともだちといっしょなので、あんしん
してあるいています。

あるひ、しんごうがあおにかわったとき、わたしはあ
わてであるきだそうとしました。すると、うしろのとも
だちが、

「まって。くるまがきてるよ。」

とおしえてくれました。もしそのままわたっていたら、
とてもあぶなかつたとおもいます。ともだちがちゅうい
してくれたので、わたしはたすかりました。

いえにかえって、そのはなしをおかあさんにしました。
おかあさんは、

「しんごうがあおでも、すぐにわたらないでくるまが
とまったかどうかをよくみるのがたいせつだよ。」

とおしえてくれました。わたしは、

「なるほど。」

とおもいました。それからは、しんごうがあおになつて
も、いちどとまって、くるまがとまったかどうかをかく
にんするようにしています。

また、あるひのばんごはんのときに、かぞくでこうつ
うあんぜんのはなしをしました。おとうさんは、

「くるまのうんでんをしていると、こどもはちいさい
からみえにくいときがあるんだよ。」

とおしえてくれました。それをきいてわたしは、

「だから、おうだんぼどうをわたるときは、てをあげ
るんだな。」

香川県高松市立円座小学校

一年 山崎 椋太
やまさき りょうた

とおもいました。これからも、ちゃんとしてをあげてわたろうとおもいました。

わたしは、かぞくにいろいろなおはなしをきいて、こうつうあんぜんのルールはじぶんのいのちをまもるためにあるんだとおもいました。ルールをまもらなかったら、じぶんがけがをしてしまうし、かぞくやともだちもとてもかなしくなってしまう。

これからもわたしは、しんごうをまもり、おうだんほどうではてをあげて、みぎとひだりをよくみます。そして、とうこうはんのもだちとこえをかけあつて、みんなであんぜんにがつこうへいきたいです。かぞくにおしえてもらったことをおもいだしながら、げんきにまいにちをすごしたいです。

ぼくのとうこう

「りょうたのおかあさんは、いつまでいつしよにどうこうするの。」

あさ、ぐうぜんあつたともだちにしつもんされましたが、ぼくはへんじができませんでした。五がつになるとじぶんだけでどうこうするがふえてきました。

そのひのよる、おかあさんになぜいつしよにどうこうするのかしつもんしました。

「しんぱいだから。でもそれだけではないんだよ。みんなあんぜんにころがけているとおもうけど、もし、じこやけがをしたときにどうたいおうする。たとえばじてんしゃとぶつかったとき。ともだちがようすいろいろにおちたとき。」

ぼくは、

「ほけんしつまではしつてたすけをもとめる。」
とこたえました。

「たすけをもとめるのはたいせつだね。でもがつこうからとおかったり、うごけられないときはどうする。」ときかれて、なやみました。

そのあと、かぞくみんなであつうがくろのきけんばしよや、じこやけがをしたときにどうたいおうするかもはなしました。ぼくがじこやけがないようにできることは、きけんばしよをしておくこと。そして、まわりをよくみることに。ふあんなときはいちどたちどまることだとおもいました。もし、ふあんなことがあってもたくさんのちいきのひとや、おにいさん、おねえさんがみまもつてくれています。

とうこうちゆう、しょうがつこうのちかくのおうだんほどうでおかあさんとおわかれます。ぼくはもう、ひとりであつうができます。でも、おかあさんとむしやはなのはなしをしながらいっしょにどうこうするのがたのみです。

おうだんほどうにちかづくところちようせんせいや、ちいきのかたがまいあさみまもつてくれているのがみえてきます。

「おかあさんいつてきます。」

「きょうもたのしんでおいで。」

と、いつものハイタッチをしておうだんほどうをわたります。きょうもみんなにみまもられながら、げんきになつこうへいつてきます。

茨城県下妻市立大形小学校

二年

染野

心暖

かぞくでまもるこうつうあんぜん

わたしのかぞくは、おとうさん、おかあさん、いもうと、おとうとの五人です。いもうとは五さい、おとうとはまだ二さいです。わたしは、一ばん上のおねえちゃんなので、みちをあるくときは、いもうとやおとうとの手をにぎって、みんながあんぜんにすごせるようにしています。

わたしは、まいあさ学校まであるいていきます。いえを出るとき、おかあさんはいつも、

「車に気をつけてね。」

と声をかけてくれます。さいしよは、あいさつのように

きいていましたが、ある日、そのいみがよくわかるできごとがありました。あさ学校へむかっているときに、おうだんほどのしんごうが青になったのでわたろうとしました。すると、よこから車ははしってきました。とまると思ったら、その車はまがってきて、わたしの目の前をとおりすぎました。もし、かくにんしないであるき出していたら、とてもあぶなかつたです。そのとき、「しんごうが青でも、右と左をよく見てからわたるように。」というおかあさんのことばを思い出しました。

わたしのかぞくは、こうつうあんぜんのために、三つのやくそくをきめています。

一つ目は、「しんごうはかならずまもること」です。赤しんごうではげつたいにわたってはいけないし、青になっても右と左をよくたしかめてからわたります。

二つ目は、「車にのるときは、かならずシートベルトをすること」です。おとうさんやおかあさんがうんてんするときも、どのせきにすわるときも、いもうとやおとうともかならずシートベルトをします。おとうさんは、「こうつうじこからのちをまもるために、シートベルトはたいせつだよ。」

といいます。でも、おとうとは、チャイルドシートのベルトをいやがるときがあります。そういうときは、わたしが先にシートベルトをつけるところを見せると、おとうともまねをしてつけることができました。おとうさんやおかあさんが、

「おねえちゃんがお手本になってくれて、たすかるなあ。」

といって、ほめてくれました。

三つ目は、「車のちかくをあるくときは、すこしはなれること」です。どうろのはしにとまっている車は、きゅうにドアがあいたりはしり出したりするかもしれませんが、車からすこしはなれてあるけば、気づいてよけることができます。子どもは小さいので、うんてんしゅさんから見えないことがあるそうです。だから、まわりをよく見て気をつけたいと思います。

この三つのやくそくをまもることで、わたしたちはあんにんにすごせています。これからも、かぞくといっしょにこうつうルールをまもりたいです。なぜなら、じぶんのいのちもかぞくのいのちも、とてもたいせつだからです。

二年

森川 もりかわ

莉望 りの

こうつうルールをまもろう

わたしは、まいあさ学校へ行く時に、とう校はんどとう校しています。ほいくえんにかよっている時に、おうだんほどをわたる時は、車がきていなくてもすぐにわたらず右、左、右をかくにんすること、手をまっすぐにあげてわたることを教えてもらったので、今でもそのこうつうルールをきちんとまもるようにしています。

わたしのすんでいるちいきでは、近じよのおばさんがボランテアでまいあさはたふりをしてられています。わたしのおかあさんとおばあちゃんも「ありがたいよね」とよく話をしています。

ある日、わたしがあさとう校していた日のことです。いつもボランテアではたふりをしてきているおばさんがどうろのはじっこでたおれているのを見ました。わたしは、いつもおばあちゃんと手をつないでとう校はんのしゅうごうばしょまであるいていくのですが、たおれ

ているおばさんを見たわたしのおばあちゃんは、すぐにそのおばさんの近くに行つて、「だいじょうぶですか」と声をかけていました。おばさんは青しんごうでおうだんほどをわたるほかのともだちを見まもっていた時に、しんごうむしをした車にひかれてしまったそうです。

いしきは、あつたけど足をけがしてうごけなくてきゅうきゅう車ではこばれていきました。いつも見ているおばさんがたおれているすがたを見てわたしは、とてもこわくてかなしくなりました。そのつぎの日からおばさんは、はたふりができなくなつてしまいました。「やっぱり見まもつていないとながあるかわからないからこんどからばばがはたふりをするね」といつてわたしのおばあちゃんがはたふりをしてくれるようになりました。わたしは、それを聞いてとてもあんしんしました。

じ分がこうつうルールをまもつていても、車にのつている人がまもつてくれないとじ分がおきてしまうことがわかりました。でも時にはじ分がきちんとルールをまもつていないからじこにまきこまれてしまうこともあります。おとなも子どももみんながこうつうルールをまもつてじこが一つでもすくなくなればいいなとおもいま

した。そしてまわりで見まもつてくれているおとなの人にかんしやしなればいけないなど思いました。

群馬県太田市立太田小学校

三年

岩田^{いわた}

博都^{ひろと}

目線

ぼくの家から小学校までは、歩いて十五分くらいかかります。大きな交差点がいくつかありますが、ほとんど真つすぐな道です。小学校に入る前に、歩道を歩く、横だん歩道をわたるときは左右をよく見て手をあげてわたる、など、何回かお母さんといっしょに登下校時にちゅう意する場所をかくにんしたので、交通安全については大じょうぶだと思っていました。

ところが、雨がふったときや習い事があるときにお母さんが車でおくりむかえしてくれるのですが、その時大じょうぶという気持ちがちがっていただけに気がつきました。お母さんの車はSUV車という少し車体の高

いタイプの車で、その助手せきにぼくはいつもすわります。その時、ぼくがいつも見ている風けいとがらつとかわりました。目線がいつもとちがうのです。小学校に通う友だちよりも高くなり、友だちを見下ろします。歩きで歩道を通っている人たちを左手に、ぼくは車道を行きます。車のすぐ左どなりには、同じ時間たいをいそぐ、中学生や高校生の自転車を通ります。歩道を進む自転車は、小学生の列を見ついたり植木などに出くわすと、それらをよけるために車道に下ります。今度は、車道にトラックや大きい車が来ると歩道にもどります。いつも自転車自分たちの列をよけてくれるのはわかりましたが、こつやつて進路を変えているのは知りませんでした。また、車に乗っていると、車からは見えにくいところがあるのが分かりました。運転席からだ、車のすぐ左後ろがよく見えないので、少しこわくなりました。そういうえば、交差点の歩道の近くに「左まきこみちゅう意」という立てふだがあつたのを思い出しました。それはこのことだなと思いました。

目線を変えてみると、初めてわかることができました。これからは、歩いている人の目線、自転車に乗っている

人の目線、車に乗っている人の目線を考えながら、グリーンベルトを真つすぐ歩く、車の左後ろには近づかず少しはなれたところを通るなどにちゅう意して、交通ルールを守り歩いていきたいです。

茨城県下妻市立大宝小学校

三年

山^{やま}中^{なか}

颯^{そう}真^ま

安心・安全は一人一人の心がけ

「えっ！また？」

ある朝、キッチンの方からお母さんの声が聞こえました。テレビを見ると、小学生がまきこまれたじこのニュースでした。五月ごろ、下校と中の小学生のれつに車がぶつかるといじこが立てつづけに起きていたからです。

ぼくは、急にとでもこわくなりました。どうしてかという、いつも学校や家までふつうに安全に行けると思っていたからです。

三年生になった今では、右左右と十分に安全かくにん

をしたり、れつからはみ出さないようにしたり、横だん歩道のしん号もきちんと守って、毎日登下校出来ていました。でも、それは当たり前のことではないんだと気づかされた出来ごとでした。

こんなかなしいじこは起きてほしくないけれど、いつ、どこで、だれに、何がおきるかは分かりません。ただ、ぼくたちが今、安全な登下校が出来ているのはなぜだろう？と考えてみると、わすれてはいけない三つの大切なことが見えてきました。

一つ目は、安全な通学ろにせつていさされていることです。通学ろの中、歩道橋をわたります。車で帰った時は、道をそのまま進んだので、

「こつちの方が近いのにどうして。」とお母さんに聞くと、

「車の通りようが多くてあぶないから、少し遠回りしても安全な歩道橋をわたるんだよ。」

と教えてくれました。そうやって、一つ一つ、きけんを回ひしてくれていることを知りました。

二つ目は、ドライバーの人も気をつけてくれていることです。決まったスピードで走るだけでなく、横だん歩

愛知県名古屋市長上野小学校

三年 早稲田 怜

私が増がいに者にならないために

三つ目は、見守ってくれる人がいることです。集合場所までおくってくれるお父さん、お母さん。家の前であいさつをしてくれる地いきの人たち。見守りボランティアの人。はた当番の人や学校の先生。たくさんの人たちに見守っていただいているおかげでぼくたちは安全に登下校できていることが分かりました。

この三つのことを通して、「ありがとう」と感しやの気持ちでいっぱいになりました。そして、このことはぼくだけでなく、通学はんのみんなや友だちにもつたえたいと思えました。

いよいよ来年の春には、弟も一年生になります。ぼくが感じたことを弟にもしっかりと伝えて、安心、安全に登下校出来るよう、ぼくもいっしょに見守っていききたいです。

夏休みに家族と豊田市の交通安全学習センターに行きました。そこでは、ゴーカートなどの乗り物に乗ることができたり、実さいの道路のように信号機や横だん歩道があり、楽しみながら交通ルールを学ぶことができました。

私は自転車シミュレーターを体験しました。始めは自転車に進むことはかん単だと思っていました。しかし、実さいにやってみると、曲がり角で歩行者にぶつかってしまい、相手がたおれてしまいました。ぶつかったげんいんを考えてみると、曲がり角のかべで歩行者が見えなくて、気づくのがおそくなつたことだと思えます。また、かべのすぐ横を走っていたのでより発見がおくれたのだと思えました。もう一つ挙げるならば、スピードが速かつたのかもしれない。ぶつかることはさけられないとしても、もう少しスピードがおそければ、相手のけがは最

小げんにすんだのではないかと思いました。

私は三年生になって自転車で行動することがふえてきました。ふだんは気にしていなかったけれど、よく考えてみると、私がよく走る公園までの道にある曲がり角もあぶないことに気づきました。今後は、角を曲がる時には、「かべの向こうから歩行者が来ているかもしれない。」「もしもの時のためにすぐ止まれるスピードまでげん速する。」という二点に注意して走ろうと思いました。

そして、万が一私が自転車に乗っている時に歩行者とぶつかった場合は、まず最初に、相手がけがをしていなかを聞くこと、次にお母さんに連らくをして、けがをしていたら周りにいる大人に助けを求めることを家族で話し合いました。

豊田市交通安全学習センターに行ったことで、自転車に乗る時に気を付けることを学ぶことができて、良い体験になりました。私にとって身近な自転車でも、人に大けがをさせてしまう可のうせいがあるという意識きを持って運転しようと思います。

茨城県下妻市立下妻小学校

四年

菊地きくち

優莉ゆうり

ただいまを言えるしあわせ

わたしは、登下校中、かならず気をつけていることがあります。それは、横だん歩道をわたるとき、信号が青になっても、車がちゃんと止まっているかを見てからわたることです。

このことを教えてくれたのはお母さんです。ある日、学校の帰り道をいっしょに歩いていたとき、わたしは信号が青になるとすぐに走って行こうとしました。すると、お母さんがわたしの手をぎゅつとにぎって、

「青でも安心しちゃだめ。車がちゃんと止まったかを見てからわたるんだよ。」

と、言いました。そのときは「なんで？」と思いましたが、お母さんはつづけて、

「運転している人が信号を見ていないときもあるし、急いでいる車もあるの。もし車が止まらなかつたらあぶ

ないでしょ。」

と、教えてくれました。それからわたしは、信号が青になってもすぐにはわたらず、左右を見て、車がちゃんと止まったことをたしかめてからわたるようになりました。

ある雨の日のことです。わたしはかさをさして、横だん歩道の前で青になるのを待っていました。青になったとたん、わたしはいつものように左右を見ました。すると、右から来た車がスピードを落とさずに近づいてきました。わたしが止まっていたので、その車はやっとブレーキをかけて止まりました。もし、お母さんの言葉をわすれて走っていたら、ぶつかっていたかもしれせん。

家に帰ると、いつも通りお母さんが、

「おかえり」

と、笑顔でむかえてくれます。しばらくすると、お姉ちゃんも

「ただいま」

と、元気な声で帰ってきます。夜には、お父さんも仕事から帰ってきて

「おつかれさま」

と、声をかけます。そして、四人で食たくをかこみ、

「いただきます」

と、言ってあたたかい夜ごはんを食べます。みんな笑いながら話す時間は、何でもないようで、とても大事な時間です。こんな当たり前の日が、わたしにとって一番のしあわせです。

お母さんが言った「青でも安心しない」という言葉は、わたしのいのちを守ってくれます。そして、それは家族の笑顔を守ることもつながります。これからも、わたしはお母さんの教えを守って、安全に道をわたります。そして、毎日元気に「ただいま」と言って、家族みんなが笑顔でいられるようにしたいです。

交通安全を人任せにしない

「交通安全を人任せにしないこと。」これは、登下校のときに母がくり返し私に言う言葉です。通っている学童保育の前の歩道はとても危険です。車道がせまいため、自転車に乗った人たちが歩道を通ることが多いのです。歩道は「歩く人の道」です。だから、本当は歩行者がいる時には、自転車はおりて通らなければならぬと聞きました。

でも、実際に自転車をおりてくれる人はほとんどいません。歩いていくすぐ横を、スピードを出した自転車がびゅんびゅんと通りすぎていくことがあります。何度もぶつかりそうになって、とてもこわい思いをしています。だから私は、自転車が来たときは立ち止まって、自転車が通りすぎるのを待つようになっています。ルールを守らない人が悪いのはもちろんです。でも、「歩行者が正しいんだから」と自分の行動をかたくなに変えなかった

ら、ぶつかってケガをしてしまうのは自分です。もしも事故にあってしまったら、自分がこわい思いや痛い思いをするだけではありません。家族や友だちも、とても悲しい気持ちになります。だから私は、ルールを守らない人がいる時こそ、自分の安全をしっかり守ることが大切だと思います。

横断歩道をわたる時も、私は信号が青になってもすぐには渡りません。車が止まっているかどうか、きちんと見てからわたるようにしています。母が兄を妊娠していた時、横断歩道の信号が青になったので、すぐに渡ろうとしたことがあったそうです。すると、赤信号に気づかなかった自動車がスピードを落とさずに、目の前を通りすぎていったそうです。あと一秒早く歩き出していたら、自動車にはねられていたかもしれません。その時のことを思い出すと、母は今でも震えてしまうと云います。もし母がその時に事故にあっていたら、兄も私もこの世に生まれていなかったかもしれない。そう考えると、交通安全は本当に大切だと感じました。

交通安全を守るためには、交通ルールを守るだけでなく、交通マナーを守ることでも大切です。交通マナーとは、

まわりの人のことを思いやる気持ちです。そして、「誰かが気をつけてくれるから大丈夫」ではなく、自分自身でもまわりの様子をよく見て、安全な行動をすることが大切だと思います。

あせっていると、まわりが見えなくなったり、正しい判断ができなくなったりします。時間にゆとりがあれば、交通ルールをきちんと守ることもできるし、落ち着いて行動することもできます。私は、毎日少し早めに家を出るようにしています。そうすることで、安全に気をつけながら登下校ができるからです。

これからも、交通安全を人任せにせず、自分の目でまわりをよく見て、安全に気をつけて行動していきたいと思います。そして、私の大切な家族や友だちにも、交通安全の大切さを伝えていきたいです。

みんなで守ろう自分の命

夏休み、ぼくは初めてのおつかいをしました。何をやるのもお姉ちゃんといっしょが多いので、一人で行くのは初めてでした。お母さんにたのまれて、近くのゆうびん局まで八十五円切手を二まい買いにきました。ゆうびん局は、家から五分ぐらいの所にありますが、交通量が多い国道十一号をわたります。行く時は、とてもきんちようしたけど、ゆうびん局に着くとお店の人にあいさつができ、切手を買うことができました。一人で買えたことがうれしくて外に出た時に切手を見ていると、風がふいてぼくが買った切手は、道の方に飛んでいってしまいました。そして、走ってきたトラックの荷台に乗ってなくなっていました。とうとうとしたけどとれませんでした。くやしい気持ちのまま、レシートだけにぎりしめて家に帰りました。しょんぼりしながら、

「母さん切手買えたけど…。」

とあったことを伝えました。するとお母さんは、

「レシートを見たら切手を買えたことはわかったよ。ありがとう。それよりも飛んだ切手を道路までとりにいこうとせず、くやしい気持ちをおさえて、自分の命を守って帰ってこれたことがうれしいよ。」
とほめてくれました。

しっばいに終わったおつかいと思ったけど、お母さんの言葉で心がとてもおちつきました。そして、自分の命を守ることを、いつも気をつけている交通安全について、もう一回家族で考えることができました。

おつかいに行く時は、自転車に乗って行きました。三年生になって自転車に乗れるようになってから、ぼくは遊びに行くときも自転車を使っています。歩くより楽だし速いからです。必ずヘルメットをかぶり左側を走るとき、横たん歩道を渡るときは、一度自転車からおりておして渡ること、信号をよく見るなど自転車に乗るときのルールは、しっかり守るようにしています。今回のおつかいでも、ルールを守れたから、けがなく家に帰れたと思います。テレビのニュースでよく交通事このニュースを見るけど、ちょっとした不注意で、大けがをしたり、

死んでしまうことがあるので、ぼくは車はこわいものだと思います。でも車がないとふべんです。ぼくのやりたい習い事もできないし、買い物もできなくなります。だからぼくたち子どもだけではなく、大人もしっかりルールを守ってほしいです。スマホを見ながら運転したり、お酒を飲んで運転するのはやめてほしいです。だれでも大切な家族がいなくなっても悲しいし、自分の命がなくなってもいやです。大人も子どももルールを守って、一つしかない自分の命を守ることが大切だと感じました。

一人一人が安全に気をつけることで大事な命は守れます。はじめてのおつかいから、交通安全について考えることができたので、ぼくはいいけいけんができた夏休みになったと思います。「いつてきます。」と家を出たら、「ただいま。」とえがおで帰ることが幸せだねと家族で話しました。二学期からも学校の登下校や友達と遊ぶ時など気をつけたいです。

香川県観音寺市立観音寺小学校

五年

亀井 かめい

涼井 りょうい

ぼくならだいじょうぶ

ぼくは、小学三年生のころ、お兄ちゃんとボール遊びをしていた時、ぼくがボールをキャッチできずに道路のほうへ行ってしまった。その時、ぼくは左右確にんせずにボールを取りに行こうとした。すると、「一たん止まれ。左右しっかり確にんしろ。」とお兄ちゃんがぼくに

言ってくれた。そして、ぼくは左右を確にんしようとして右を見たら、自転車がものすごいスピードでぼくの目の前を通りすぎて行った。その時ぼくはこう考えた。もしお兄ちゃんがぼくに左右確にんしろと言ってくれなければ、自転車とぶつかって大けがしていたかも知れない。さらに自転車で乗っていた人にもけがをさせていたかも知れないと思うと、せすじがぞくつとした。道路に飛び出してはいけけない。これは幼稚園の交通安全教室で教わったルールだ。車や自転車はすぐには止まれない。だから、道路に出る前に歩行者は止まって周りに危険がな

いか確にんしなくてはいけない。それまで「そんなこと分かってるよ。道路に飛び出すわけないじゃん。」と思っていた。だけど、ぼくはお兄ちゃんと遊んでいる時にボールに夢中でこんなかん単なルールを守ることができなかった。そして、もう少しで事故にあうところだった。ぼくはこのけい験で、当たり前だと思っていた交通ルールにもきちんと意味があり、そのルールを守らないと大きな事故になりかねないということ、だれだって事故にあう可能性があるということを学んだ。

小学四年生から自転車に乗ることが多くなってきた。ぼくが自転車で乗る時に気をつけていることは、歩行者がいつ飛び出してきてもすぐに止まれるスピードで走るということ。理由は、歩行者はこないだろうと思って、速いスピードで走っていたら歩行者が出てきたときに事故になってしまうから。ぼくは、歩行者になることも自転車で乗って行動することもある。どっちの時も決められた交通ルールを守ること。それは絶対守ると心に決めている。自分の命を大切にすることが他人の命も大切にするこゝにつながらると思っているから。何をすることも「だから」とは考えずにもしかしたらという意味も込めて「か

も」と予想できないことが起きることも考えるようにしている。でも、無意識に何かに集中していたりすると冷静に考えて行動できないことがあるかもしれない。今回経験したようにボールに夢中で道路に左右確にんせずつびだそうとしたりしてしまいかも知れない。

これからは遊ぶ場所を考えたり、自分はだいたいじょうぶだと過信したりしないようにすること。だから、ルールはきちんと守らないといけない。ぼくはそんな気持ちで気を引きしめていこうと思う。そのため約束の時間にはよゆうを持って早めの行動ができるように心がけたい。

香川県観音寺市立観音寺小学校

五年

間 渕まがち

羽 海うみ

「ながらスマホ」について

わたしは、車に乗っている時に、スマートフォンをそ
う作しながら歩いている人を見かけました。家に帰って
から、家族と「ながらスマホ」について話し合いました。

わたしは、

「ながらスマホをしていると信号が赤なのか青なのか
が分からなくなったり、ふみ切りが鳴っているかが分か
らなくなったりするので、事故にあうリスクが高くなる
よね。」

という話をしました。その後お兄ちゃんが、

「確かに、ながらスマホをしなくなったら、事故も少
なくなるね。」

と言ってくれて、家族みんなが共感してくれたので、と
てもうれしかったです。その話し合いが終わった時、弟
が、

「あつ。」

と言ったので、指をさしている方を見ると、「ながらス
マホ」をしている人がいたので、注意をしようかなやん
でいると、後ろからお父さんが、

「ながらスマホはダメですよ！」

と大きな声で言ったのでびっくりしました。でも、すぐ
に注意をしたお父さんを見て、少し誇らしかったです。

次の日、家族でドライブに行っている時、他国の人が、
自転車に乗りながらスマートフォンをそう作っていて、

「あぶないなあ…」と思つていたら、その人がふみ切りに直進しようとしていました。すると、近くの人が自転車の人を止めてくれました。事故が起きなくてよかったですけれど、すごくひやひやしました。わたしたち家族は、車の中でみんなが、

「あぶない！」

とさげんだ後だったので、ほっとして笑いがおきました。

また次の日に、お母さんが車を運転しながらスマートフォンをそう作っていたので、わたしが、

「ながらスマホしたらいかんよ。」

と言うと、お母さんが

「ああ、ごめん！気をつける。」

と言ったので、「よし分かってくれた。」と思つて、うれしかったです。

ちがう日に、お兄ちゃんが自転車に乗りながらスマートフォンをそう作っていたことをわたしの友だちから言われたので、帰ってからお兄ちゃんに、

「何回言ったら分かるんよ？いいかげんにながらスマホ止めて！」

とわたしが言った後から、わたしの家族の「ながらスマ

ホ」がなくなりました。

最近では、お兄ちゃんが

「おれの家族、マジで、事故とかないんで。」

と自まんするようになりました。「それ、わたしのおかげやで。」と思つておもしろかったです。これからも、家族みんなで「ながらスマホ」に気をつけていきます。そして、家族みんなが笑つてすごしていきたいです。

福岡県朝倉市立甘木小学校

六年 手島 琉生

交通ルールは命の約束

「行つてきます」と言つて家を出た人が、「ただいま」と帰つてこれない。そんな悲しいニュースをよく目にします。そのたびに胸が痛みます。事故はほんの一瞬で起こり、一度起これば、命を奪つたり、大きなケガを残したりします。私は今、交通安全が「自分の命」だけでなく、「周りの命」を守る行動なのだと強く感じています。

小学校に入学して登校する際、母が毎日「車に気を付けてね」と言っていました。当時の私は、それをただお決まりのセリフだと聞き流していました。しかし成長するにつれて、その言葉の重みが少しずつ分かるようになってきました。

私の家は毎年春になると、交通ルールについて話し合います。私の登校ルートには二つ危険がありました。一つは「相手との死角」です。車の確認が遅れるため、ヒヤッとします。なので車が来ていなくても、左右ちゃんと見て、安全に通っていきます。二つは「横断歩道」です。歩行者優先にも関わらず一時停止しない車を見ると、「行っていたら、大きなケガを負っていた」という危ない場面にも遭遇します。そのため、「車の位置」を正しく確認することと「一時停止をしない場合を想定すること」が大切です。今年はこの身近にある危険について話し合いました。このことはすぐ胸に響きました。

私の中にはどこか「交通ルールは自分には関係ない」と思いこんでいました。でも、家族で話し合ったことで、交通事故はいつ起こっても不思議ではないと思えるようになり、心がけることができるようになりました。

最近では、友達の中に「ヘルメットはダサイ」と言っ
てかぶらない人がいます。でも私は母の言葉を思い出し
ます。「命を守る方がずっとかっこいい。」確かにその通
りだと思いました。命があるから全力で勉強できて、遊
べて、笑い合える。交通安全は、夢や未来を守る一つの
行動です。

私はこれからも、家族と話し合った交通ルールを守り
続けます。そして、ルールを守っていない友達に注意で
きる人になりたいです。交通安全は一人が取り組むので
はなく、みんなで守り合うものだからです。

交通ルールを守ることは、命を守ることです。その思
いを胸に、自分自身の行動を見直しながら、日々大切に
力強く歩んでいきます。そして、悲しいニュースがなく
なると信じています。

愛媛県松山市立宮前小学校

六年

藤 渕 ふじがち

悠 玄 ゆうげん

命を守る心配性

弟がまだ三歳くらいの頃、危うく事故で命を落とすところでした。父が玄関から出かけるのを見て、弟が勝手について行ったのです。玄関のかぎを開けて、門は閉まっ
てなくて、父を追いかけて門から道路に飛び出した瞬間、
車がきて急ブレーキをかけました。ものすごい音と共に、
運転手さんは降りてきて、大声で怒鳴ったそうです。

「俺を犯罪者にする気か！気をつけろ！」

弟はキョトンとして、父はひたすら謝ったそうです。
あの時の事を話す時、普段は何があっても動じない父が
こう言いました。

「一生のトラウマになっている。生きていて本当に良
かった。門を閉めなかったパパが悪い。後ろも確認すべ
きだった。」

子供はそれまでしなかったことを急にしようになる
と聞きます。僕はこのことをうつすら覚えていて、父も

母もこの日以来「するかもしれない」意識を持ち、色々
僕たちに注意するようになりました。だから僕も、強く
心に残っています。弟が生きているから、こうやって話
せるけど、「もし…」と考えるだけで僕の心臓はドクド
クして、息苦しくなります。

母は以前、信号待ち停車中に、斜め後ろから勢いよく
追突され、むち打ちになり、通院と痛みで不便そうでし
た。首の痛み、頭痛などで、湿布を貼るのが僕と弟の役
目になりました。洗濯物を干すのや、洗い物も、首を動
かさなくていいように僕たちも協力。安全運転で信号待
ちしていても、ある日突然事故にあうのです。違反して
いなくても、事故に巻き込まれる恐れがあります。そう
考えると、道路に出るということは、歩きでも、車でも、
幸せな日常が、一瞬にしてうばわれることもあるのだと
怖くなります。普段の生活では、何事も気にし過ぎない
方が良いと思います。だけど、道路にいる時は、心配性
な方が良く、「車が突っ込んでくるかも」「青だけど止まっ
てくれないかも」「僕に気づいていないかも」挙げれば
たくさん「かも」があつて、慎重に行動したいです。
心配性になって「青になつてもすぐに渡らず左右を見よ

う」「僕を見つけてもらえよう、渡る時は手を高く上げよう」「通り過ぎるまで広い場所で待とう」そうやって、たくさんの不安を、一つ一つクリアし、一つだけの命を守りたいと考えています。

車もバイクも、歩く人も、自転車も、みんながお互いに気をつけて、何より自分の命は自分で守る、その気持ちを強く持つことで無理をしなくなり、安全への第一歩になると僕は思います。命を他人任せにせず、後悔のないように、後悔させないように、僕は自分を守りたいです。そして、周りの人も守れるように、安全意識を持った大人になりたいと思います。

愛媛県松山市立石井北小学校

六年

柳瀬 やなせ

新奈 にいな

失敗から学ぶ防げる事故

小学生の移動手段といえば、ほとんどが自転車です。私も、おばあちゃんが誕生日にプレゼントしてくれた自転車で、友達と遊びに行ったり習い事へ行ったりしています。

そんなある日、当時五年生だった私は、急いで家に帰ろうとしました。右側を走行して、交差点でスピードを落とさないまま右折しました。曲がった先には一時停止している車がいて、私はブレーキをかけることができずに、あつ！と思った時にはもうぶつかっていました。運転手のおじいさんはとても優しく、けがはないか、自転車は壊れていないか、何度も聞いてくれました。車には傷が付いていました。「どうしよう。やつてしまった。」と、私は涙が止まらなくなつて、とても怖かったです。おじいさんは自宅まで付いて来てくれて、母と話をしてくれました。お別れしてからも、電話で心配してくれて

いました。

私の失敗は、左側通行をしなかったことと、カーブミラーを見たり一時停止をしたり、安全を確認しなかったことです。全てできていないといけないことだけど、どれか一つでも守れていれば、事故は起きなかったと思います。今は、これらに気を付けて運転しています。

そしてもう一つ、良くなかったのは自信を持っていたことです。低学年の時より上手に運転ができるようになって、行動のはん囲も広がりました。何でもできるような、お姉さんになったような気持ちがありました。よく「慣れた時に失敗する」という言葉があるように、油断していたなと思います。慎重に、少し疑うような気持ちで運転した方が良いです。「車が飛び出して来るかもしれない」というような、かもしれない運転を心がけて、自分自身に対しても同じように、無理のない運転を選択しなければいけません。急なブレーキをかけずにすむように、スピードを出し過ぎないようにしたり、信号が点滅つしていたら、次の信号を待つようにしたり、対策すれば危険は少なくなります。

交通事故はたくさんの原因で起きています。子どもの飛び出しや、高れい者の操作ミスはとも多いです。自分の油断で、だれかを犯罪者にしてしまうかもしれないし、自分の失敗でだれかを殺してしまうかもしれない。それがハンドルのにぎる責任です。

私はその時の事故で死ななかったから、これからの人生で気を付けることができます。運転技術も上がりました。でも、気を付けることは変わりません。何歳になっても、車やバイクに乗るようになって、初心を忘れずに無事故無違反を目指します。